

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

週刊 EVANGELION

エヴァンゲリオン・クロニクル

04

定価 **690**円(税込)

2010/3/2



Mechanic Sheet

第3使徒サキエル

アルビーヌ・ルノーA310(改)

Character Sheet

葛城ミサト

2年A組の生徒たち

Tactics Sheet

J.A. 停止作戦

Timeline Sheet

初めての戦闘

Installation Sheet

国連

Technology Sheet

EVA 輸送システム

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



特製 バインダー

絶賛発売中!!

DEAGOSTINI

deagostini

EVANGELION CHRONICLE

04

目次 | CONTENTS

週刊エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

【発行日】 2010年9月2日
 【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
 〒104-0045
 東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル
 【発行人】 小河原和世
 【編集人】 クロス中山慶子
 【チーフエディター】 安部 翠
 【印刷】 大日本印刷株式会社
 ©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

【編集協力】 株式会社ウィーブ（石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな）
 【監修】 株式会社ガイナックス
 ©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>

【編集協力】 有限会社メゴロマニア（富田英樹/高村春雄/渡邊洋三/
 加藤和弘/山田麗寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹）

【執筆】 TRAP（西川紗矢/遠藤智子）

【イラスト】 市川裕文/深野洋一（M.I.C.）/射尾卓弥

【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント（島田明/角田正明）
 株式会社 インフォビジョン（河野幹哉/安川純史/阿部将之）

<新訂版>

【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社（伊藤統希/米良真一）

【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社（松本優典）

●書店向け注文センター

（書店様からのご注文を承ります）

☎ 03-5212-5311

（月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く）

☎ 03-5212-5312

●読者サービスセンター

（本誌関連の一般的な質問を承ります）

☎ 0570-008-109

（月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く）

※本商品は2006年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』（発売：ソニー・マガジズ）に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



Mechanic Sheet メカニクシート

第3使徒サキエル

01-04

アルピース・ルノー-A310(改)

09-10

Character Sheet キャラクターシート

葛城ミサト A

05-08

2年A組の生徒たち

11-12

Timeline Sheet タイムラインシート

初めての戦闘

13-16

Tactics Sheet タクティクスシート

J.A.停止作戦

17-18

Installation Sheet インスタレーションシート

国連

19-20

Technology Sheet テクノロジーシート

EVA輸送システム

21-22

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典

23-26

企画書

27-28

トピックス

29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちで!

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト▶ <http://www.jp/eva/>

エヴァンゲリオンオフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>



定期購読のご案内

『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です（一部地域を除く）。シリーズ全巻が確実にお手元に届くように、書店を過ぎての定期購読をお願いいたします。読者の皆様に、定期購読または予約購読をご用意ください。また、小売店を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで

☎ 0120-300-851

(9:00～21:00 年中無休)

☎ 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

〔定期購読のお申し込みがお手元ない場合は受注センターまでご連絡ください。〕

特製バインダー発売中!!

『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー・2・3巻の2冊セットを創刊特別価格990円(税込)で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※創刊特別価格は2010年9月末日までの期間限定となります。

※それ以降は通常価格1,790円(税込)となります。

※4巻目のバインダーは第34号でプレゼントいたします。



▼読者専用FAX受注センターへお申し込みください。お申し込みの際は、お申し込みの住所とご住所に違いがある場合は、お申し込みの住所とご住所の両方を記載してください。

※個人情報は厳格に管理し、第三者へ提供いたしません。お申し込みの住所とご住所に違いがある場合は、お申し込みの住所とご住所の両方を記載してください。

※お申し込みの際は、お申し込みの住所とご住所の両方を記載してください。お申し込みの住所とご住所に違いがある場合は、お申し込みの住所とご住所の両方を記載してください。



第3使徒

サキエル



15年ぶりに現れた
人類の天敵

 UNKNOWN
THIRD ANGEL
SACHIEL

海よりきたる第3の使徒

使徒 (ANGEL) と呼称され、神の御使いである天使の名を冠された存在。それぞれが単体の種と見られ、生命の起源と目されるアダムより生まれたとされる。人類とは相容れない絶対的な天敵であり、NERV本部に隠匿されたアダムと接触することで人は滅びるという。使徒は各々に特殊な性質や姿形があり、A.T.フィールドと呼ばれる絶対不可侵の領域を操る。このことはサキエル襲来時に国連軍との戦闘で裏付けられ、人類が保有する通常兵器では使徒に太刀打ちできないと国連軍が身をもって証明する運びとなった。

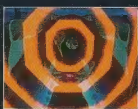
第1使徒と言われるアダムとの接触から15年の月日を経て、人類が再び遭遇した使徒がサキエルである。人に準じた外見をしており、両腕に光の槍を持つことから近接戦闘型と推測される。

国連軍の防衛網を突破して第3新東京市へと侵襲したサキエルは、迎撃に出たEVA初号機を活動不能に追い込む。その直後、暴走した初号機によってコアを破壊されかけるが、止めを刺される前に初号機を巻き込んだ自爆によって果てる。

水を司る天使名のため海中より襲来。その御名は“神の命令”を意味し、人間を監視する存在とも言われる。墮天使として数えられることもあり、一説では邪視を持つともいう。機能増幅後の怪光線は、まさしく邪眼といえるかもしれない。



相模湾を進むサキエルの影。背部のくぼみには上層腹のような器官があると見え、ルシフェリンといった発光物質を放つと思われる。



A.T.フィールドを展開するサキエルに通常兵器は無力だった。同様にA.T.フィールドを有するEVAこそ人類唯一の対抗手段である。

DATA

呼称：3rd ANGEL
第3使徒

天使名：SACHIEL
サキエル

象徴：SYMBOL
水

能力：ABILITY
光の槍
怪光線
自爆



前面 FRONT



背面 BACK

ああ、まちがいない。
使徒だ。
(碓ゲンドウ)

関連事項

- 第1次直上会戦
- 使徒
- 国連軍
- n地雷

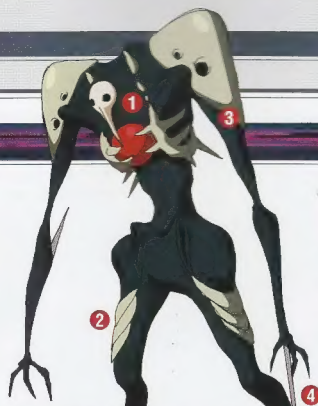


第1次直上会戦と維持されたサキエル戦。暴走によってEVA初号機がサキエルを下し、使徒の自爆によって幕を閉じた。

サキエルの体構造

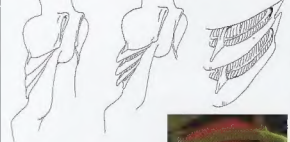
統一された容姿を持たない使徒。中でもサキエルは二足歩行で移動するタイプであり、人間に似た外見を持つ。そのほかにS'機関に由来していると推測される使徒特有の自己修復能力と、体機能の拡大による機能増幅能力を有する。これらを併せ持つサキエルは、単体兵器として考えるならば理想的な存在であり、進化する超科学的生命体といえよう。

ウェットスーツのような体表面は、柔軟な動きを可能とするゴムのような素材に見える。自爆の際に自らを球状へ変化させて見せたが、自在に変化できるの自爆時だけの形態なのかは不明。また、背部から伸びた肋骨状の部位はかなりの強度を誇り、コアを守るように迫り出している。この部位は初号機によって折り取られ、コアへ突き立てる武器として使われた。



2 エラに似た機構

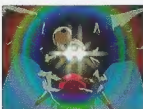
大腿部には魚類を思わせるエラを持つ。貝類の水管のように、胴から腰にかけて備わった取水器官によって水を取り入れ、エラから排水を行なう。水棲生物本来のエラは、水中の酸素を取り入れ、体内の二酸化炭素を排出するための呼吸器官だが、サキエルは大気中においてもエラを用いた呼吸を見た。それは生命活動の維持ではなく、自己修復や機能増幅に必要なエネルギーを得るためだと推測される。



n'地雷がダメージを受けたときに機能しているエラ。外気より必要な成分を積極的に取り入れ、自己修復を促進していたものと考えられる。

1 頭部と思しき部位

頭部には頭部（もしくは頭）らしき部位を持つ。眼窩に似た部分は頭骨のようなアクションを見せる。これは国連軍の無意味な攻撃に対する嘲笑ともれるが、そういった感情を持ち得るのかどうかは定かではない。なお、最初の頭部を押しつけるように現れた新しい頭は、怪光線を放つために増設された新器官であろう。



怪光線の発射時に光の屈折で虹彩が発生しているため、一種のレーザー兵器と推測される。



サキエルの活動記録

サキエルは相模湾より襲来し、上陸を阻む国連軍の戦車大隊を壊滅させて侵攻。上陸後は厚木と人間の航空戦力が迎撃するも、足止めすら不可能だった。だが、国連軍の戦力が通じないという事態は予測されており、予め配備されていたn'地雷が使用される。それによって損傷を与え侵攻を一時的に止めるが、結果的にサキエルの機能増幅を招いてしまう。再侵攻後、第3新東京市に到達したサキエルはジオフロントの存在を感じて攻撃を開始。迎撃に出たEVA初号機を一旦退けるも、暴走した同機により深手を受け、同機を巻き込んで自爆した。



初号機に追い詰められたサキエルは自爆を図るが、外敵である第8使徒甲を破壊したに留まり、相打ちには至らなかった。

A.T.フィールドを展開するサキエルにはサキエルの攻撃すら効かず、国連軍の保有する戦力をもっともせず侵襲した。

サキエル侵攻記録

- 相模湾より襲来
- 国連軍と交戦
- n'地雷により損傷
- 機能増幅
- 自己修復により
- 到達
- 第3新東京市に
- 初号機と交戦
- 追い詰められ自爆
- 暴走した初号機に
- 巻き込まれ
- サキエル殲滅



3 腕力の増大

盛り上がった腕に比べて華奢な二腕を持つ。しかし、一時的に強い力が必要とする場合、人間でいう腕・頭筋や筋膜や筋膜などの部位が瞬間的に膨らみがり、驚異的な腕力を発揮した。腕力増強のプロセスは不明ながら、超常の力で腕力を得るのではなく、純粋に腕力を用いて腕力を生み出していることがわかる。



通常でも腕を握りしめるほどの力を持つが、EVAの腕を折るには腕力増強が必要だったという。

4 光の槍

生物としての爪であり牙。両腕に備える槍状の武器であり、掌部分からバルのごとく対象へ打ち込む。身長に倍する射程を持ち、伸縮可能な突撃部分を核として光の槍を形成しているようで、掌にある赤いレンズ状の器官を通して光の穂先を形成、射出する仕組みに見えるが、その原理は不明。



掌の赤い物質が光槍を形成する器官だと考えられる。

特記事項

サキエルのセカンドバージョン

n'地雷によって損傷を受けたサキエルは、侵攻を中断して自己修復に専念した。その際に機能の増幅と追加を行ない、より強靱な生命体と化す。怪光線という遠距離への攻撃手段を身につけ、その腕力はジオフロント1層の第8使徒甲まで一撃に貫くほどであった。



自己修復と共に機能の増幅や追加を行ない、攻めを拡張した新生サキエルといえよう。



指揮官と
保護者



NERV



葛城ミサト

MISATO KATSURAGI

二つの
顔を持つ女性



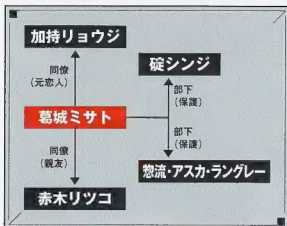
個人情報

| | |
|------|---------------------|
| 名前 | 葛城ミサト |
| 年齢 | 29歳 |
| 国籍 | 日本 |
| 生年月日 | A.D.1986/12/08 |
| 血液型 | A型 |
| 所属 | NERV/戦術作戦部作戦局第一課 課長 |

特務機関NERV本部にて、戦術作戦部作戦局第一課課長を務める女性、それが葛城ミサトである。EVAによる使徒殲滅戦の作戦指揮を担当する彼女は、シンジら操縦適格者の直接的な上司に当たる存在だ。階級は一尉であったが、使徒殲滅戦での実績が認められてか、三佐に昇進した。

主な経歴は以下の通りである。14歳の頃に父が率いる葛城調査隊と共に南極に上陸。そこで、セカンドインパクトに直面し、父を亡くす。そのショックにより一時失語症に陥るも、無事に治癒し、第2東京大学に入学。同大学卒業後はNERVの前身であり、また母体ともなった秘密組織ゲイルンに入所。そして、ゲイルンの人員、施設その他のすべてがNERVに移行したために、当然ミサトもそれに沿うこととなり、現在に至っている。

人類にとって実に15年振りになる使徒襲撃の際、ミサトはNERVの一員として第3の適格者を迎えに行く——それが彼女と碇シンジとのファーストコンタクトだった。本来ならばひとりで暮らすはずだったシンジを、自宅に引き取ることに決めるミサト。シンジの他人を寄せ付けようとしないうる性格を見かねたことと思われるが、そこには女性特有の母性が働いたのかもしれない。さらには第7使徒迎撃作戦の際には急流・アスカ・ラングレーをも自宅に迎え入れている。そのことから、ミサトはNERVの作戦部長として適格者を監督するだけでなく、また中学生の少年少女である彼らを、ひとりの人間として見守る保護的な役割を担っていたといえる。

人物相関図

関連事項

- 加持リョウジ
- 碇シンジ
- 惣流・アスカ・ラングレー
- 赤木リツコ
- NERV



NERV内部に身を置きつつ、その秘密を調査していた男性。研究室内部の一部を元恋人であるミサトと共有していた。

表情


→ミサトに最もよく見られる表情は多分笑顔だろう。微笑みの中に秘められた、強い意志を持った凛々とした顔の印象的だ。



シンジとの初対面時のミサトは、後で自分のことを名前で呼ぶように言う。緊張しているであろうシンジへの気遣いだ。



→髪をた顔立ちや、ゆるやかなウェーブのかった長い髪も、ミサトの特徴である。その横顔には、どこか少女のようなうなだけなきが感じられる。



→対使徒戦などの折によく見られる、何かを悔しがついているかのような表情。29歳という年齢の割には、感情の起伏が激しいところがある。



シンジ/NERVに召喚された際、ミサトから返られた字義。シンジとしては驚きを通り越してふざけ過ぎという印象を受けたかもしない。

服装
背面


→身体にぴったりとフィットしてウエストラインが強調される風いワンピースは、活動的なミサトらしい印象。露出が多く、かつ動きやすい服を好むようだ。

正面


→タイトなワンピースと丈の短いジャケット (制服) の組み合わせは、赤と黒という色合いも相まって、スーパードン印象を生える。いつも腰にかけている十字をかたどったチョークは、こくなった父の形見である。

側面

→正式な場への出張といった特別な任務中でもない限り、ミサトの出陣時の服装は、私服の上に寒いジャケットを羽織ったややラフなものだ。

葛城
ミサト
という存在

→シンジを出迎えた
時のミサトはワンピース
を着用しており、
制服のジャケットは羽
織ってなかった。

←勤務時、常に着用し
ている赤いジャケットは、
本来ならばNERV
制服、スーツの上着に
あたるもの、襟には階
級章がついている。

基本的に気さくで陽気、かつ楽天的な考え方の持ち主であるミサトは、一見するといき加減な性格を醸しているように見える。それが、はるかに底下のシンジに初対面から「歳の割に子供っぽい」と言われてしまう所以なのだが、その実、非常に芯の強い女性である。また、男勝りな一面も持ち合わせており、無鉄道とも思える行動を取る場面も多々見受けられる。彼女の中には、女性らしさと男性らしさが共存している。それは、NERVの作戦部長という、強さと深さが必要なポジションを務めているうちに形成された人格とも推察できる。

また、ミサトは理論的な考えよりもどちらかというと感情や勘を頼りに行動するタイプである。正しい理論というものには、時に冷酷な面もある。彼女はそういった正論よりも、人の心情に重きを置いていように見受けられる。冷静な理論派の多いNERVという組織における彼女のような人物は、まだ思春期の少年少女であるシンジたちにとってはある種の救いともいえる貴重な存在だといえよう。



「楽天的だね」と言うリツコに「希望の観測は、人が生きていくための必需品よ」と答えるミサト。前向きな意味で楽観的な女性といえるだろう。



本来ならばミサトが食事当番の朝なのだが、朝食を作ったのはシンジ。未だ独り身なのがあったとシンジに罵られる。

私生活の面からミサトを見ると、非常に大雑把で放漫である。初めてミサト宅を訪れたシンジは、その家の中の乱雑ぶりに絶句するのだが、それをもって「ちよっち散らかってる」と言い切るところなどは、その性格が如実に表している。また、シンジと同居する際に家事当番を決めたにも関わらず、まったくそれを守らないため、シンジに手を焼かせていたようだ。それ以前に、家事全般がかなり得意なようで、特に料理に至ってはインスタントのカレーさえ不味く作ってしまう程である。仕事が忙しなため私生活では手を抜いているのか、元々の性格なのかは少々判断が難しいところであるが……。

放漫
な性格
の影響NERV
作戦部長
としての姿勢

使徒殲滅のために大胆な作戦を立て、最前線部隊技術開発所に無茶な要求をするミサト。その姿に迷いは微塵もなかった。

J.A. 巻末時、ミサトは単身でその機体に乗っ取り込もうと試みる。必要とあれば、彼女は身体を賭して危険な場所に飛び込んでいくことも厭わぬ。



使徒殲滅における作戦部長としてのミサトは、非常に勇猛果敢な姿を見せる。時に無茶とも思われる作戦を立てることもあるが、どれほど勝率の低い作戦でも、怯むことなく操縦連絡格者たちに指令を下していく。セカンドインパクトを亲身体験し、その恐怖を身をもって知っている彼女は、使徒に敗北すること(すなわちサードインパクトの発生)が決して許されないことを理解している。だからこそ彼女は、多少の無茶など承知の上で、真っ直ぐに勝利を目指すことができるともいえる。一瞬の迷いが致命傷になり得る戦いで迷みない判断を下せるという一点に置いて、ミサトは有能な指揮官である。

碇
シンジ
との関係

かなり悪態に、シンジを引き連ねることに決めたいミサト。前向きな性格の彼女には、シンジの内面的な性格が気になるものだったのかもしれない。



シンジが再びミサトの元に戻った瞬間、ミサトは笑顔でシンジを受け入れる。この場面からは、大人の女性らしい包容力が感じられる。

シンジが初めて自宅に来た際、「ここはあなたの家なのよ」と告げたミサト。彼女としては、シンジを家族として迎えるつもりだったのだろうが、その思いはシンジには届かなかった。EVA操縦者にかかる重任を前にして自分を見失い、家から逃げ出してしまおうシンジ。その後、思い直したシンジはミサトの元に戻るのだが、その時の「ただいま」「おかえりなさい」というやりとりをきっかけに、初めてふたりは家族に近い関係となる。以降、自宅でのミサトはシンジにだらしない姿を見せることも厭わない。そういった他人には見せない姿を晒すのは、彼女がシンジを家族として認めている証なのである。



シンジが家出した際に会話をふるふたり。シンジの心情を理解するミサトと、冷静に事実を把握するリツコ。互いの意見に対照的な性格がよく表れている。



長年の付き合いで、ミサトのだらしないさも長く知っているであろうリツコ。遠慮なく突っ込みを入れてくる彼女のおかげもまた、ひとつの友情の形だろう。

NERV技術開発部技術局第一課所属の博士、赤木リツコ。彼女とミサトは、第2東京大学で知り合ってから以来の親友同士だ。また、互いに頼れる同僚でもある。NERV内での互いの立場は大きく異なるうえに、常に冷静な観点で物事を語るリツコと、感情論に走りがちでミサトでは性格は正反対といえる。だが、ふたりは仕事でもプライベートでも、非常に息の合ったところを見せており、ミサトはリツコの冷静な部分に助けられ、リツコはミサトの素直な部分に救われている。それぞれ、自分にはないものを相手の中に見つけることができるからこそ、長い間、親友という関係を続けられたのだろう。

赤木
リツコ
との関係

過去の関係を暴露され、ミサトは胸を刺すように加特を怒鳴りつける。その後、彼女はこの機会を「悪手」と評しているが、その本心は不明だ。



リツコが加特の手による僅後継機作戦のデータを盗られ、機体ミサト。他の場面ではなかなか見かけられない相手をおもしろがるような笑顔だ。

第2東京大学での学生時代でミサトと知り合った加特リョウジ。当時のふたりは恋人同士だったが、ミサトがゲルヒムンに入所する前にその関係は終わっていたようだ。現在の彼はNERV特殊監察部及び日本政府内務省調査部に所属する二重スパイである。加特がNERV本部に滞在することになってからは、ミサトは彼の言動に振り回されっぱなしだった。そんな加特に迷惑そうな態度を取るミサトであるが、その中には失われていない愛情を感じさせることも。そして二重スパイとしての加特の持つ情報もミサトに大きな影響を与える。結果、加特の存在は公私に渡ってミサトに大きな意味を持つことになる。

加持
リョウジ
との関係

特記事項

一杯へのこだわりの意味

ミサトの家の冷蔵庫の中は、ほとんどが缶ビールで埋め尽くされている。銘柄は「YEBICHU」(まれに「BOA」)。他に庫内に入っているのはつまみと氷くらのもので、実質的には酒に関するものだけで占められている。食事はインスタントのもので適当に済ませてしまう彼女だが、酒には強いこだわりを持っているようだ。ビールを在のまま美味しく一気飲みしては「人生このときのために生きてるようなもの」とうそ言っていることから、そのこだわりが見取れる。シンジやリツコは彼女のそういっただけで飲めるばかりだが、彼女にとってはその一杯を口にする瞬間が何にも替えがたい楽しみなのだ。同時に対価使役の現場指揮という職務の重任から解放される一瞬でもあるのだろう。



↑エビチユビール

↓BOAビール



お気に入りのビールを一緒に飲んだ後の笑顔。これ以上ないというほどの、至極のものといった表情である。



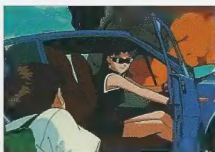
アルピーヌ ルノーA310 (改)



不遇なる ミサトの愛車

ラリーやレース仕様車を供給し続ける、フランスはアルピーヌ社のスポーツカー。葛城ミサトの所有するA310 (改) は彼女がレストアを重ねた車で、右ハンドルの2シーター電気自動車へと改造が施されている。33回ローンを組んでのレストアだったが納車早々に中破、再びレストア送りとなった。復帰後もさほど間をおかず、戦略自衛隊の襲撃時に損壊し、短い天寿を全うした幸運い名車である。

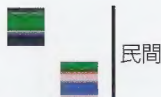
本来のA310は新世代アルピーヌとして1971年に誕生。FRPボディに鋼管バックボーンフレーム、1600cc直列4気筒OHVのリアエンジン方式というA110の流れを汲みつつも、往年の丸みを帯びたフォルムから角張ったフォルムへとスタイルを一新した。ヘッドランプは角形6個を用い、2+2シーターのキャビンに造り上げた意欲作といえよう。



この車は、ミサトが33回ローンを組んでレストアを重ねた車で、右ハンドルの2シーター電気自動車へと改造が施されている。



レストアの中で、エンジンや駆動系を修理した。その中でも、Pホイールの強弱が印象に残る。

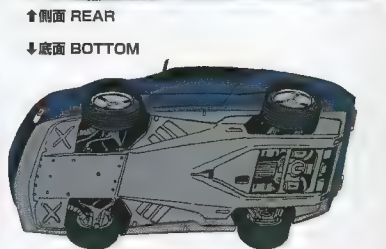
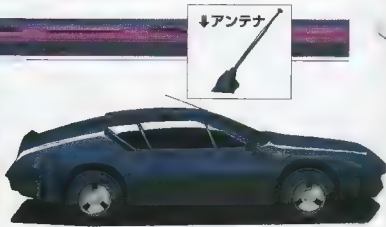


ALPINE RENAULT A310

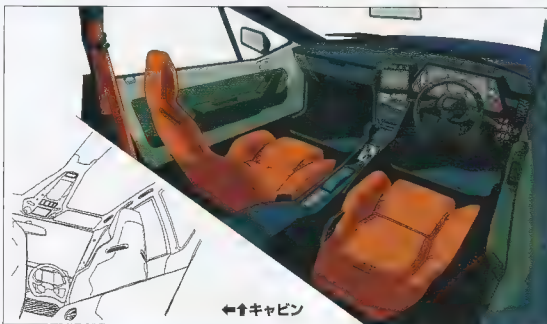
(MISATO'S CUSTOM)

性能

当時の仕様とは大きく改造を加えられた旧世紀の名車。ガソリンエンジンではなく、電気を調整する制御装置とモーターを搭載した電気自動車である。外見はA310とはいえず、どこまで従来の構造や材質が残っているのかわからない。



↓アンテナ



運用

第3新東京市に響いた硬シンジを迎えにくため、レストアしたばかりのA310(改)を選んでミサト。第3使徒サキエルと国連軍の戦いに巻き込まれたシンジを守るため、最前線でのラフな運転を余儀なくされる。そのため戦闘の余波を受けて損傷し、再度レストア送りとなった。復帰後は、またしてもシンジを助けるための足となり、織略自衛隊の襲撃を切り抜けながらNERV本部内を駆け回る。その際に車体が破壊して、最後は乗り捨てられてしまう。



関連人物

- 葛城ミサト
- リレナ
- 第3使徒サキエル
- 織略自衛隊



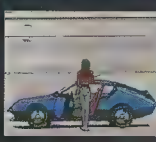
硬シンジの保護者役である葛城ミサト。彼女は「Car OX」という自衛隊を組織しており、かなりの車好きとわかっている。



特記事項

ガソリン車仕様

A310モデルを少なくとも2台は所有しているミサト。2台目は右ハンドル型の電気自動車で、もう1台は左ハンドルのガソリン仕様である。2015年モデルはかなりの改造を施されているが、機体は1971年当時の車庫を複製されたものである。その複製を色塗く際、エンジンは後期に一本化されたP.R.V.2700V型6気筒SOHCである。ただし、2シーター仕様なのはミサトのオーダーなので複製時の仕様なのか定かではない。なお、ミサトはフェラーリ308も所有するが、そのスペックがカーナビと異なる。



EVA操縦者たる 14歳の「適格者」

と学校生活を
共にする者たち



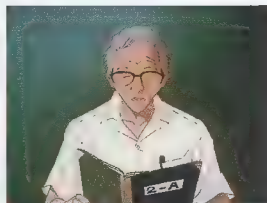
民間



2年A組の生徒たち

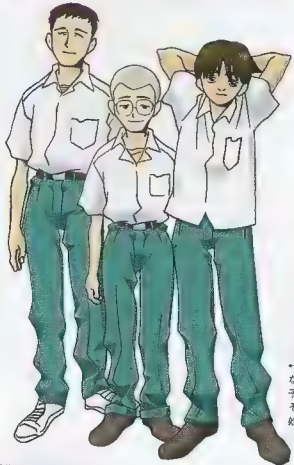
STUDENTS OF CLASS 2-A

破シンジを始めとする3名のチルドレン——EVA操縦者たる「適格者」が学校生活を送っている場が、第3新東京市立第壱中学校の2年A組である。いかにも14歳という少年少女らしさを持ったクラスメイトたちは、殺伐とした世界に生きる適格者たちの癒し役を担ったものと推察される。なお、第3使徒の襲撃後は疎開する者も増えたが、この2年A組は常に大半の座席が埋まっている状態であった。これは同クラスの生徒が、人類補完委員会直属の諮問機関とされるマルドゥック機関（その実体は不明）により選出された「適格者」候補であったためだが、フォースチルドレンに選出された鈴原トウジ以外の生徒は、幸いにもその苛酷な運命に直面することはなかった。



男子生徒

クラスメイトの一部には適格者への野次馬的な興味心が見え隠れする者もいるが、おおむね普通の学友として接する姿が見受けられる。教師もまた非常時を除き、生徒に対し分け隔てなく接していたようだ。その結果、適格者を含む2年A組の生徒たちは使徒襲来という危機にさらされながらも、一般的な中学生と同じ学校生活を送っている。これは14歳という年齢の少年少女らしい「無邪気さ」のなせる業といえるだろう。ちなみに総シンジを始めとする3名の適格者は、母親が死亡または存在が不明となっているが、その「母親がいない」という事実が、適格者あるいはその候補者の選抜理由のひとつの見方もある。明るく学園生活を送る2年A組の生徒すべてがその事例に当てはまっているとも考えられるが、その真相は定かではない。

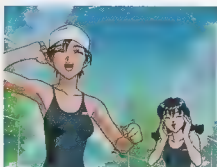


一教室での授業中、休み時間などにその姿が確認できる男子生徒たち。体型は様々だが、その表情には或る期待の微妙な匂いが漂っている。



授業中、期末を促してシンジ、質問を投げかけた女子生徒。この後、シンジはEVAの操縦者であることを知るが、それによって囲まられるということにはななかった。この一件からも、クラスのおそろいな雰囲気が見て取れる。

女子生徒



一色のスクール水着と白いゴムキャップを兼用した、いかにも「水泳の授業中」といった感じの女子生徒。2015年時、無償時に日本海に置き去りされたため、体育には水泳の授業が多く組み込まれていたと思われる。

追加報告

2015年の授業風景

黒板の前で授業を進める教師。その授業の様子を種々異なる真面目な生徒や居眠りしている生徒たち。その姿は一般的な中学校と何ら変わらぬように見える。生徒たちが教科書やノートの代わりに使用しているのはA4サイズの板書であり、これを利用して授業は進められる。カリキュラムについても数学や体育など一般的な内容であり、修学旅行といった学校行事も取り行なわれていた。全体的な学校生活自体は恐らく他校と大差のないものと考えられる。しかし、この2年A組の生徒たちは、単なる中学生ではなく、給科女でマルドゥック機関によって選ばれた適格者候補たちだからだ。



授業中、生徒らおむねA4サイズの板書を使用。シンジの睡顔は不明だが、教科書やノートの板書もまた使われている。



数学の授業中に教師の睡顔の担任。教師も高学年編、赤松製菓とブティックという名前を持つ女性製菓師の生徒もいる。

担任教師



一色や頼朝にセカンドインパクトについて語る面がある。初老の担任教師。なお、題の内容は公式見解通りだが、それは特殊な情報網によるものではなく、単に一般人には詳細を知り得る者がなかったためであろう。



- 第3新東京市立立寄中学校
- 第3新東京市
- チルドレン



総シンジらEVA操縦者たちの通う中学校。ごく一部の人間を除き、総シンジらEVA操縦者候補が2年A組に編み込まれている。

●第3新東京市

02 初号機、リフト・オフ

「発進！」葛城ミサトの号令を受けて初号機は地下格納ケースから射出された。高スピードで移動していく機体は、やがて鈍い衝撃音と共に地表に到達する。第3新東京市街に放り出された形の初号機。その目前に俵様はいた。最終安全装置が外され、シンジはいいに正体不明の敵と対峙する。



射出された初号機は、地上へ向かってすさまじいスピードで上昇していた。

目と鼻の先の距離で対峙する使徒と初号機。職員たちはその様子を緊張しながら見守る。



03 初号機、使徒と交戦

自由に動けない初号機を使徒が翻弄する

まずは歩くことだけを考えてというリツコの指示に従おうとするシンジだが、パラメスを取れずに機体を転倒させてしまう。そこへ近寄ってきた使徒が初号機の腕をつかみ、すさまじい力で引っ張り始めた。防御システムも反応をみせず、ついに初号機の左腕は振りつぶされてしまった。

「一日の地獄による攻撃で、自己修復を行なう法律にも何のダメージも与えていない。」



初号機の動きはきこなく、歩行もおぼつかない。そこへ襲いかかってきた使徒は、頭面と胸をつかひとトリギリと引き裂いた。



神経接続により止じられた腕の痛みもつらみ、シンジはあんなに苦しい思いをしたことがない。



防御システムも作動せずには抵抗もできない初号機は、ついに左腕を振りつぶされてしまった。

05 初号機、再起動

これ以上の戦闘はムリと見たミサトは作戦中止を決定するが、完全に沈黙した初号機はエントリープログラムの強制抜出命令も受け付けない。だが、打つ手なしと思われたその時、完全に沈黙したはずの初号機が再起動した。雄叫びをあげた初号機は敵のように躊躇し、使徒に襲い掛かった。



目を覚めるNERV職員たちの前で再起動した初号機は、天に向かい、野戦のように咆哮した。

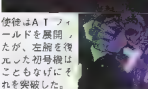
先ほどのまでのどちなさが値のような暴早い動きで、初号機は猛然と使徒へ飛びかかっていた。



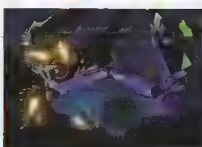
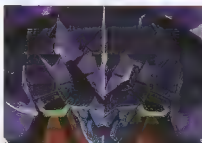
06 初号機、使徒を圧倒

突如、変化した初号機が使徒を圧倒していく

接近戦を挑む初号機に対して使徒はA.T.フィールドを展開した。あのフィールドがある限り、こちらの攻撃は敵に届かない。集りに共にモニターを見上げるミサトやリツコたちだったが、初号機はつぶされた左腕を自力で復元したばかりか、自ら発生させたA.T.フィールドで位相空間を中和し、さらに素手でフィールドを引き裂いてしまった。使徒は怪光線に対抗しようとするものの、初号機はそれすらものともせず、ついに相手の両腕を引きちぎってしまふ。それは圧倒的除根い取り差った。



使徒はA.T.フィールドを展開したが、左腕を復元した初号機はこどもなげにそれを突破した。



至近距離から怪光線を放たれても初号機はびくともせず、再び使徒へ襲い掛かっていった。

使徒の両腕を片手で握りつぶした初号機は、それを引きちぎり、その残三を振り飛ばす。

初号機、使徒を圧倒

管制所からの
制御を受け付けず、
暴走状態に陥る

初号機、再起動

パイロットの生死は不明

初号機、機能停止

使徒、初号機に
一方的な攻撃を加える

初号機、使徒と交戦

シンジ、使徒と対面する

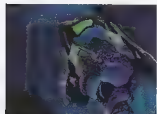
A.D.2015

07

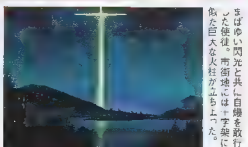
使徒、自爆

使徒の自爆に初号機は耐え、その力を誇示した

使徒を振り飛ばし、その上に馬乗りになった初号機は、胸前に見えるコアを攻撃し始めた。すると、もはや勝ち目はないと見たかのように使徒は身体を球状に変形させ、初号機を取り込んだまま自爆してしまう。激しい閃光と爆発音がとどろくさまを、息を呑んで見守る舞台所の職員たち。だがモニターの映像が回復した時、紅蓮の炎の中には、大地に足をつけて立つ初号機の姿があった。「あれがEVAの……本場の姿」眼前に見せ付けられた恐るべき力に、ミサトたちは呆然とするばかりだった。



EVAの攻撃でコアにダメージを与えると、本体は球状に変形して自爆しようとする。この時、EVAの姿が球状に変形した。



EVAの攻撃でコアにダメージを与えると、本体は球状に変形して自爆しようとする。この時、EVAの姿が球状に変形した。



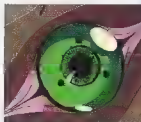
EVAの攻撃でコアにダメージを与えると、本体は球状に変形して自爆しようとする。この時、EVAの姿が球状に変形した。

●第3新東京市

08

シンジ、意識を失う

エントリーブラヴ内で暴走していたシンジは、EVAの頭部装甲が地に落ちる音で我に返った。脇にあるビルの壁面にはEVAの横顔が映っている。その時、初号機の眼珠が復元し、まるでシンジを見つめるかのように視線を合わせる。それを見たシンジは絶叫し、気絶してしまう。



正気を取り戻したシンジは、ビルの壁面に初号機の眼珠が映りこんでいるのに驚きつめた。

EVAと目を合わせたシンジは恐怖のため失神してしまう。

A.D.2015

11

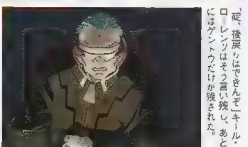
ゲンドウ、人類補完委員会に出席

勝利の報告にも補完委員会は冷ややかだった

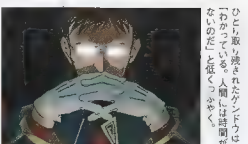
回収作業が行なわれていたのと時を同じくして人類補完委員会の会議が開かれた。委員会の面々はゲンドウにNERVとエヴァンゲリオンをもっと多く運用せよと苦言を呈したうえで、使徒殲滅よりも人類補完計画こそがNERVの本来的な目的であり急務であると強調する。「その計画こそがその絶望的状况下における唯一の希望なのだ……我々のね」意味ありげな言葉が交わされ、いずれにしろ使徒の再来による計画の遅延は認められないと、議長のキール・ローレンツは固い声で返すのだった。



EVAの「オモチャ」と指摘する委員会の面々。ゲンドウに対する彼らの態度はどこか憎悪的である。



EVAの「オモチャ」と指摘する委員会の面々。ゲンドウに対する彼らの態度はどこか憎悪的である。



EVAの「オモチャ」と指摘する委員会の面々。ゲンドウに対する彼らの態度はどこか憎悪的である。

●NERV本部

12

シンジ、ゲンドウと対面

シンジは迎いに来たミサトと共に病院を出ることになった。だが、エレベーターに乗ろうとしたとき、ゲンドウがドアの向こうに現れる。黙ったままじつとシンジを見つめるゲンドウ。シンジはそんな父から思わず顔を背けてしまう。ふたりが動かないまま、再びドアが開き、閉ざされた。



レイのところへ向かう途中のゲンドウと目合わせたシンジだが……。

父の視線に耐え切れずに目をそらしてしまう。それは、ふたりの運命の運命を物語るものだった。

2015年

使徒、初号機を巻き込んで自爆



シンジ、初号機と視線を交わし、意識を失う



シンジ、NERVの病院で意識回復



同時にNERV広報部の情報操作が行なわれる
初号機の回収作業が進む

タクティクスシート

Tactics Sheet

J.A. (ジェットアローン) 停止作戦

Sheet

08

J.A. STOPPAGE OPERATION

Illustration by Takuya Ito



日本重化学工業共同が開発した対使徒戦闘用無人兵器「ジェットアローン」は、完成披露記念会での公試運転において、突如、制御不能に陥った。暴走一筋の機転によってジェットアローンの停止には成功したが、この事件そのものがNERVによって仕組まれたものであった。

J.A. (ジェットアローン) 停止作戦

日本政府と企業共同体による示威行為と、NERVのシナリオ

NOTES SHEET

一般にNERVは、国連直轄の超法規的組織として知られている。NERVの任務は「使徒」と呼ばれる存在を撃退することであり、そのために対使徒迎撃要塞都市である第3新東京市を建設し、さらに汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンを建造した。しかし、それらの建造と維持には莫大な費用と労力が必要で、「人類の未来を守る」という「立派」な目的を掲げている。その裏には「金」という現実が付きまどっている。さらにNERVの任務の性質上、あらゆる物品——特に兵器や建築資材、EVAの生体パーツなど——は消費が激しいため、頻繁な補給が必要不可欠とされる。そのため、NERVとの繋がりを持つ企業は必然的に「NERV利権」ともいえるものの恩恵を受けているのである。また、政治的にも国連直轄という立場のため、日本政府の管理下にない点もNERVの特殊性を際立たせてい

るといえる。

NERVの利権によって莫大な利益を上げている組織がある一方、そうした利権の恩恵を受けないものたちも存在する。そうした企業は、単体ではNERVとその周辺の組織には対抗できないため、ひとつの共同体を形成するに至った。「日本重化学工業共同体」と呼ばれるこの組織には、日本政府の関与も噂されている。最も信憑性のある説として、使徒との戦闘におけるイニシアティブを失った日本政府が、日本重化学工業共同体の結成を後押ししたというものがあつた。また、日本重化学工業共同体が日本政府の命を受けて、巨大人型自走兵器「ジェットアローン」(以下J.A.)を開発したことも、この説の裏付けとなっている。

日本政府や日本重化学工業共同体の動きをNERVが察知しているはずはなかった。第3使徒との戦いの際、国連軍の将兵の間に従司令が「そのためのNERVです」と答えたように、エヴァンゲリオンとNERV以外の存在が、使徒に対抗できてはいけ

なかったのである。J.A.の建造開始を知ったNERVが取った具体的な行動に関しては不明な点が多い。通常、情報収集と妨害工作などが実施されるが、情報収集はともかく、妨害工作を行なった場合、NERVに嫌疑が掛けられることは確実である。そのため、周到な用意の元に計画が進められたと推測される。NERVの妨害工作は、J.A.を破壊するだけでなく、工作そのものが最大の影響を發揮、さらに対使徒戦におけるNERVの必要性をアピールするようなシナリオの下に計画されていた。そして、旧東京都心で行なわれた完成披露記念会での公試運転で、政府や共同体の関係者の見守る中、NERVの書い込んだシナリオが実行されようとしていた。

RELATED MATTERS

- ジェットアローン
- そのほかの地域
- NERV
- 日本政府
- 日本重化学工業共同体



日本重化学工業共同体が開発した対使徒用のEVAに対抗するための建造された。

妨害工作の全容

NERVが日本重化学工業共同体に対して実施した妨害工作は、極めて単純なものであった。公試運転のJ.A.を制御不能とし、発券直前に何らかの手段によって正常に戻すというものであった(結果から見れば、方法は不明だがNERVが停止させる予定であったようだ)。葛城一尉の行動以外は、NERVのシナリオ通りに進捗しており、この事件の後、J.A.に関する全ての計画は白紙となっている。また、妨害工作はNERV課報部が立案、実行したとされる。

完成披露記念会において列席者を見守る中、遂にJ.A.は起動した。しかし、この時点ですでにNERVの書いたシナリオは最終段階へと入っていたのである

J.A.の暴走と停止作戦の実施

TACTICS SHEET

1 破司令、情報操作の報告を受ける

破司令は司令室において、政府への情報操作に関する報告を受ける。またその中で、J.A.に関する妨害工作も話題に上るが、破司令はこれ「問題ない」と認可。これで変更なくシナリオを進めることが明確認識された。



破司令の手元には、J.A.の軍装資料があった。また、政府もNERV/EVAに関する資料を手に入れた。

2 J.A.完成披露記念会

旧東京都心においてJ.A.完成披露記念会が開催された。記念会では、J.A.の開発責任者である時田と赤木博士の中で議論が繰り広げられた。その後、公試運転のため、一時中断された。



NERVからの出席者はわずか二名。会の途中で行われた質疑応答では、時田からEVAに関する情報が提示された。

3 公試運転開始、J.A.制御不能となる

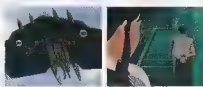
J.A.の公試運転が開始された。初期起動は成功、歩行試験へと移行した。しかし、その直後に、リアクターの内圧が上昇、この異常事態にコントロールルームは緊急停止信号を発するが、J.A.はこれを受信しなかった。



緊急停止信号を無視したJ.A.は、コントロールルームのある一帯を踏み込み、歩き続けた。

4 J.A.停止作戦、開始

時田は全プログラムを消去するパスワードの使用許可をしようとするが、政府関係者が問題点を直視することにはなかった。この事態に対し、葛城一尉は強制停止手段を講じるため、強断で作戦の実施を決定した。



葛城一尉はEVA初号機の出撃を指示。時田は「バスター」がご希望、であることと葛城一尉に教えた。

5 葛城一尉、J.A.への乗り込みに成功

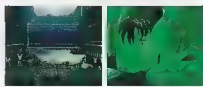
EVA初号機から、J.A.へと乗り移った葛城一尉は機体内部へと侵入した。コントロールルームまで辿り着いた葛城一尉は時田から教えられたパスワードを打ち込むのだが……



EVA初号機は、葛城一尉を手の平に乗せ、走ってJ.A.に接近。青道の戦車を控えて一時の動きを封じた。

6 J.A.停止作戦成功

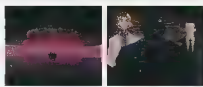
時田から教えられたパスワードではJ.A.は停止しなかった。葛城一尉は、制御軸を強制的に挿入し、リアクターを停止させようと試みた。炉心融解が迫る中、突如、パスワードが認識され、J.A.は停止した。



J.A.の停止に関係せず、歓喜の声をあげた。しかし、葛城一尉は自分がこの一歩が仕込まれたものであることに気付いていた。

7 赤木博士、破司令に報告

J.A.停止作戦の終了後、後フロントに帰還した赤木博士は、破司令に面会した。彼は破司令にJ.A.に対する妨害工作がシナリオ通りに進んだことを報告する。この事件により、J.A.開発計画は白紙にされた。



破司令たちにとっては、葛城一尉の行動予知外だった。彼らは彼女がJ.A.に大きな影響を及ぼすことには気づかなかった。

技術調査

ジェットアローン

J.A.は日本重化学工業共同体によって開発された、新技術を用いた無人ロボットである。内部に搭載した制御リアクター(原子炉)を動力源とし、カタパルス機構上では連続150日間の作戦行動が可能であるとされる。



遠隔制御によってコントロール室から遠く離れた地域に、自動的に作戦行動を遂行する。内部には制御リアクター(原子炉)を動力源とし、カタパルス機構上では連続150日間の作戦行動が可能であるとされる。

遠隔制御によるコントロール室から遠く離れた地域に、自動的に作戦行動を遂行する。内部には制御リアクター(原子炉)を動力源とし、カタパルス機構上では連続150日間の作戦行動が可能であるとされる。

結核菌は培養しておらず、オプシオン装置が標準による制御を想定していないと推測される。

白兵戦を善戦とした兵器に、原子炉を搭載する危険性は放棄するつもりもない。

危険
危険

作戦報告

J.A.停止作戦におけるふたつの所見

J.A.停止作戦において、NERVは当初の目的を達成した。しかし、今回はNERVにとっていづつかの弱点が明らかとなったことは間違いない。また、EVAについても興味深い用途が考えられる点にも注目したい。

●EVAと人間の連携

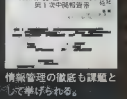
今回の作戦では、EVAは葛城一尉がJ.A.に接続させるために使用された。対後援敵では不可能な運用方法だが、他のケースに応用可能な点にも注目したい。



EVAの汎用性が十分に発揮されたケースでもある。

●情報管理の徹底

今回、EVAや使徒に関する情報以外の機密に漏れていることが明らかとなった。流出経路の究明と、今後の情報管理の徹底が必要である。



情報管理の厳密も課題として挙げられる。

特記事項

日本政府の反応と、体質的な問題

J.A.が制御不能になった時点で、開発責任者の時田は、全プログラムを消去するパスワードの使用許可を日本政府に求めていた。しかし、日本政府の要請にある人々は、事態の重要性を理解せず、責任の所在を探るため、誰もパスワードの開示を決定しなかった。炉心融解の危険が迫っているにも関わらず、些端な問題に阻まれての彼らに危機感を感じられない。こうした体質では、万一、J.A.が使徒と闘うことがあったとしても、その能力も十分に発揮されたいは疑問が残る。現場ももて余り完璧に発揮できる環境を作ることも、指揮者たちの役目なのである。



責任の所在が明確にされないという政府の持つ問題が、顕在化するようになった。

時田からの義勇隊にももたないよびが、中にはその結果を恐るものもあった。

国連

機関の発足とその概要

時に西暦1945年、国連憲章に調印した加盟国の大半がこれを公式に承認したことを受け、国際平和と安全の維持を中心に、経済、社会、文化、人道的性質を有する国際問題の解決という目標を掲げた機関が発足した。様々な国の問題を話し合い、妥当と思われる措置を実行できる、いわば主権国家組合のような世界規模の機関——国際連合こと国連(United Nations)の誕生である。発足以来、加盟国の尽力により目標の達成を目指してきた国連だが、軍事大国、経済大国の思惑に左右されやすいという側面があったことも否定できず、その結果は決して一枚岩とは言い難いものだった。

しかし、西暦2000年、その体制に変革期が訪れる。南極で発生した正体不明の大爆発(のちにセカンドインパクトと呼ばれる)によって南極大陸が氷解したらうえ、全世界規模で気候が変動するという大災害が発生したのだ。この災害によりインド、パキスタン間で難民同士の衝突が発生。さらにヨルダン、カンボジア、ロシア等でも暴動、紛争が連鎖的に発生した。終息する気配を見せないこれらの衝突により、さらなる結束を必要とした国連は、バレンタイン休戦臨時条約を締結。アメリカ、アジアとアフリカ的主要国、欧州各国が条約に調印したことにより、国連加盟各国は自国軍隊を国連軍に委託することとなる。これにより紛争地からの戦闘の排除が促され、災害からの復興に力を注ぐための下地が用意される一方、国連は史上類を見ない強大な軍隊を指揮下に置くこととなり、その発言力も急速に増大した。

一方、そういった世界の流れの裏で、国連は秘密結社ゼーレと共に独自の研究施設、人工進化研究所を設立。汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンと、第7世代スーパーコンピュータシステムMAGIに関する研究を推進していた。さらにその調査、研究の場はゲルムンに移行し、最終的には、国連直属の特務機関NERVへと引き継がれた——。NERVの設立目的は、はからずも2015年、第3使徒襲来によって公のものとなるが、これらを連続する一連の事象として捉えた場合、国連は早期に使徒襲来(あるいはそれに類する脅威)を予見していたこととなる。なぜ使徒襲来を予見し得たのか、国連軍すら手の打ちようがない使徒に対抗するEVAとは何なのか——、それらの謎が明るみに出ることはないものの、国連がその絶対的な発言力を背景に、国際平和と安全の維持という命題を一般には非公開の「何か」に委託させてしまったことは事実である。



国連の主要機関

- 国連軍
- NERV
- 人類補完委員会
- ゼーレ
- セカンドインパクト

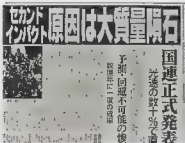


国連加盟国の赤十字
力により難民を救う
世界規模の環境・気
質的に国連の指導下
に入。その活動は
管理される。

2015年の世界情勢を鑑みた 国連の特殊な権限

2015年に否応なく対使徒戦略という命題を突きつけられた世界において、国連は絶対的な必要性を持つ。使徒がらみの事象においては、これに応じた議会への口封じ、大衆向けの情報操作（隠蔽工作）が行なわれる。ただし、具体的な使徒迎撃作戦は国連直属の特務機関であり、使徒に対抗しうるEVAを所有するNERVにゆだねられる。この場合、作戦内容により国連軍はもちろん、そこに組み込まれない各国固有の軍隊すらその方策に従わざるを得ない。

なお、NERVが請求する予算については人類研究委員会が監査、確保する。しかし、一応の質疑はあるものの、その額がいかに膨大であっても予算承認されない事態はないようだ。



国連常任理事国の調査結果を元にした、セカンドインパクトの公式原因。情報操作が行なわれていたが、それに気づいた事は、一握りしかないかった。

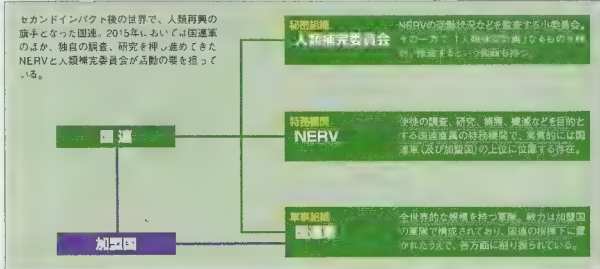
国連統治下の世界体系

国連統治下の世界体系、対使徒戦略上の組織構成は以下に示したような形態となっている。加国連の協力あつての国連ではあるものの、その構造は若干特殊なものとなっている。

国連においては、基本的に加盟国の意思がその活動に反映されているが、パレンティン休眠時局的緊急対応、加盟国は自衛軍隊を国連軍に委託することになると、互いに力を合わせて復興力を注ぐという姿勢の色遣いになる。さらに、国連が使徒の襲来に曝された2015年においては、国連の権

限が大幅に強化された。加盟国であり、その方策にほぼ無条件で従わざるを得ない状況となり、国連そのものが「世界の中心」といった権限を呈している。結果、国連直属の組織、その上位組織などの活動に関しては透明化され、加盟国が意向にそってそれらを監視、干渉ができない状態になっている。

●国連／組織構成と加盟国の関係



国連傘下組織の 主な役割

国連統治下の世界においては、その傘下組織それぞれに大きな権限が与えられている。ただし、各組織を国連運営で俯瞰した場合、微妙な力関係が明らかになる。

各国の軍力を集結し、歴史上類を見ない規模の軍隊となった国連軍。しかし、使徒殲滅（あるいは人類補完計画）が最優先となる2015年からNERVが台頭。対使徒戦略においてはEVAを要するNERVが主権を握り、国連軍はそのサポート役にはいやられた。なお、国連傘下の組織でありながら、人類補完計画の遂行、を至上命題としている人類補完委員会、他の組織と一線を画した位置にいる。彼らのNERVを監視するという役割は、あくまで計画を滞りなく進行するための作業にすぎない。さらに人類補完委員会は、ゼールの支配下にあるという過言ではない。結果的に、使徒襲来以降の世界は、国連ではなくゼールを中心に動いているといえるだろう。

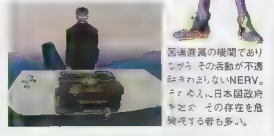


第3使徒に対し、赤兵衛による防攻撃を加える国連軍の方慮軍。さらに特殊部隊を用いたもの、使徒を撃滅することはないが、「使徒殲滅」という人類の至上命題INERVに託されることとなる。

●NERV

汎用人工型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオンを保有し、使徒に対抗しうる唯一の戦力となっている超法規的組織。国連直属の組織と書かれるものの国連の指示を受けることなく、実質的には人類補完計画の推進を目標とするゼールの指揮下にある

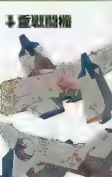
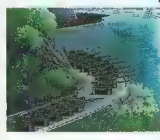
EVA初号機



国連直属の機関でありながら、その活動が不透明な点のないNERV。さらに、日本国政府を定めてその存在を危機感する者も多い。

●国連軍

セカンドインパクト後、国際連合兵器開発機構を擁する国連の傘下に組織された軍隊。2015年の第3使徒襲来以降は、同じく国連の組織であるNERVと共同して使徒殲滅作戦にあつた。ただし、NERVとの間には若干の軋轢があり、その結末は強面と言いきれない。

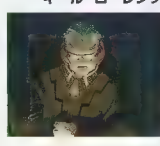


セカンドインパクト後の混迷する世界に規律を取り戻した。全世界規模の強大な軍隊。ただし、対使徒軍においては、その造幣能力は拮抗した1場なかった。

●人類補完委員会

NERVを監視する役目を持つ小委員会。NERVの活動状況の確認、請求予算の監査、確保などを主な職務とする。ゼールのメンバーである米、英、仏、露の代表者4名と、議長を務めるキール（独）によって構成されており、実質的にはゼールの下部組織といえる。

キール・ローレンツ



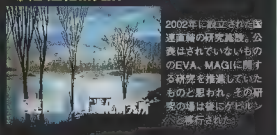
人類補完委員会の会長の権限において、常に上座に座しているキール。メンバーの中でも、常に議長である彼の発言力は最大のものである。

特記事項

関連する組織・施設

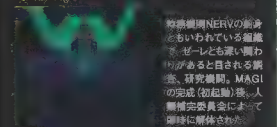
セカンドインパクトから使徒襲来までの、さまざまな国際機関の組織、機関が設立された。その中でも特徴的なものが人工進化研究所と研究所である。これらを含んだ総ゲンドウの、最終的にINERVの最高司令官となつている。なお、その実体が誰に包まれたゼールという組織は国連を経済的に助けている秘密結社と言われているが、その真相は定かでない。

●人工進化研究所



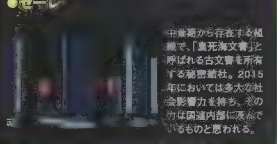
2002年に設立された国連直属の研究施設。公表はされていないもののEVA、MAGIに関する研究を推進していたものと思われ、その研究の場は後に対使徒作戦に活用された。

●ゲルシム



特務機関NERVの前身ともいわれている組織で、ゼールの元家・野村が所有する秘密結社。2015年においては多大な社会影響力を持ち、その外は国連内部に及んでいるものと思われる。

●ゼーレ



中東圏から存在する組織で、「真の人類文明」を保持する古文書集を所有する秘密結社。2015年においては多大な社会影響力を持ち、その外は国連内部に及んでいるものと思われる。

EVA 輸送システム

EVA TRANSPORT SYSTEM

使徒はすべからず第3新東京市を目指して侵攻する。これは既存の使徒の動向を観察すれば明白である(裏死海文書にもそのことを指し示す記述がある。しかしこの場合、使徒が目指すものはアダムであり、そのため第3新東京市もしくはその地下に建造されたジオフロントにアダムに關係する物体が保管されていると推察される)。第3新東京市が「要塞都市」と呼ばれ、各種迎撃用兵器や対使徒用決戦兵器エヴァンゲリオンが配備されているのもそのためである。つまり第3新東京市は、EVAが使徒との戦闘を演ずるコロシアムとして建造されたのだが、これに関しては建設当初からいくつかの問題点が提起されていた。

最大の問題は「本当に使徒は第3新東京市に向かってくるのか」というのもであった。裏死海文書の記述にあるとはいえ、実際の使徒の動向はその時になってみなければわからず、そんな不確定な情報だけを頼りに対使徒用の戦力——特にEVA——の運用範囲を第3新東京市に限定していいのか、という疑問が示されたのだ。さらに使徒は複数個体が存在するという記述もあり、その場合に第3新東京市の戦力だけで殲滅が可能かという疑問も生じた。単体でも使徒の戦闘能力は強大であり、よしんば殲滅に成功したとしても第3新東京市やEVAの損害も甚大なものになるであろう。そして復旧もままならない時に新たな使徒が出現した場合、残された戦力だけで使徒を殲するのは至難の業と言わざるを得ない。使徒に対する戦力を第3新東京市に集中させることによって発生するだろう、これらの弊害が看過されたのである。

これを解消するべく提起されたのがEVAの長距離輸送システムの確立だった。第3新東京市に設置された軍火詰を動かすことはままならないが、人型を模したEVAなら必要に応じて戦場を移動させることができよう。使徒の移動コースが確定すればその線上にEVAを配備し、水際での迎撃も可能になる——のような思惑からEVAの建造と並行してその輸送システムの構築が計画された。だが電力で稼動するEVAは完全な独立兵器ではなく、電力供給ラインの確保をはじめとする様々なバックアップが必要とされた。そのため輸送システムの確立は難航したが、その有効性はいくつかの実戦(浅間山火口内での戦闘や相模湾沿岸での戦闘)で実証されている。



RELATED MATTERS

EVA
ジオフロント
NERV

対使徒用、建造された人型兵器
本拠地として
電力供給ライン
の確保が必要とされた



機能別に分岐した種の特長をそれぞれに与えられた役割

EVA輸送チーム

第3新東京市外部で使徒を捕縛するため、予測針路上にEVAを配備するのが「EVA輸送チーム」の主任務だが、実際の任務はそれだけに留まらない。前述したようにEVAは完全な独立機動兵器とは足りえず、その起動には外部電力を必要とするため。また的確な隠滅戦を実行するためには

指揮官の同行が不可欠であり、情報収集を行なう技術者や報道管制を担当する警備員も必要。結果、輸送チームは複数の混成班で構成されている。



EVAの起動と運用、さらにはバックアップには多数の操作員や人員が必要となるため、班内では各機単機による長蛇の列が行われる。

不測の事態に際してEVAが稼働停止状態に陥った場合は即座に機体を取り、両側に広範囲にわたる情報操作もなされる。

巨体の運搬を可能とする専用機も必要とする

EVAの輸送手段

全高40mを超える人型兵器であるEVAを迅速かつ的確に輸送するには既存の輸送システムでは対応しきれず、そのため新たな機体が建造されることになった。その際、道路や線路といった既存の交通システムに依存するものは却下された。特出見没の使徒に対応しきれないことが懸念されたためである。結果としてEVA専用輸送システムには航空機が採用されたのだが、それ

にしても既存の輸送機では対応できず、新たに専用の輸送機を建造する必要に迫られたのだ。

特記事項

量産型EVAの輸送法

量産型EVAがNERV復讐に投入された際にも専用長距離輸送機が用いられた。だが初号機や試身機は機内ケージに納められていたのとは対照的に、量産型EVAは底部から半ば吊り下げられる形で運搬された。そのため輸送中は底部が機外に露出する形となっている。



下半身と脚部、脚部を機体内に固定されたままの状態を輸送される量産型EVA。これは機体拘束具がこれに接続していたのかもしれない。

EVA輸送チーム/構成図

1 機体輸送担当班

EVA本体の輸送を担当する班であり、彼らの迅速な行動が第3新東京市以外での戦線の確立を可能にしている。とはいえ使徒は特出見没であり、出現してから移動コースを算出することになったため、実戦では後手によって対応することも多い。唯一の敵いは使徒の移動スピードがほとんど早くないことであり、輸送準備と輸送スピードを向上することで、防衛線の素早い確立を目指している。

2 サポート班

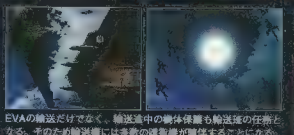
サポート班の主任務はEVAの動力となる電力の確保にある。第3新東京市とは違って輸送先に専用コンセントがあるはずもなく、サポート班は外部コンセント系輪と電源車を使ってEVAに電力を供給することになる。また不測の事態に対処すべく予備の兵装や補給物資、電源ケーブルなども運搬する必要があり、多種多様な車両で構成されている。



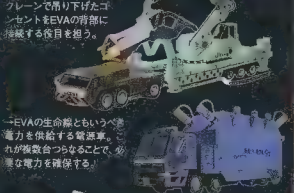
専用コンセントとケーブルを用い、電力供給を行なう。

3 指揮担当班

第3新東京市からの脱出においては、NERVからの指示を仰いだり、またでは好意を遂げよう可能性が高い。そこで実際の指揮は、移動指令部としての機能を持つ戦闘指揮車輪から発令されることになる。情報収集能力を高めた車両内には複数のモニターが設置され、そこから得られる戦闘データを表示し、戦闘指揮官が視察を執る。また科学技術班担当班員も同様。必要データの収集、分析を行なう場合もある。

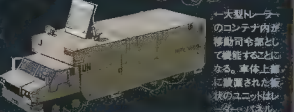


EVAの輸送だけでなく、輸送途中の機体確保も輸送班の任務となる。そのため輸送班には多数の運用員が配置することになる。

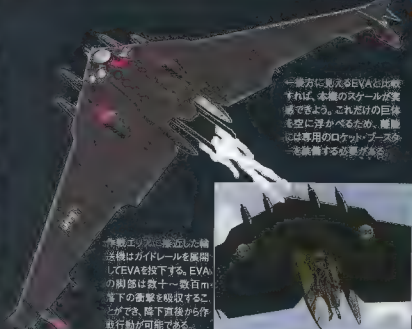


外部コンセント車輪のブレーンで吊り下げたコンセントをEVAの背部に接続する役目を担う。

EVAの生命線ともいえる電力を供給する管理車。これが複数つながることで、必要な電力を確保する。



一式型EVAのユニット内外部移動可能にして輸送し続ける。車体上部に設置された後部のユニットは、EVAの電源。



一方に吊るるEVAは比較すれば、本機のスケールが実感できよう。これだけの巨体を空に浮かぶため、機体には専用のロケットブースターを装備する必要もある。

赤標式のEVA輸送機はガードレールを展開しEVAを挟下する。EVAの脚部は数十〜数百mm下の衝撃を吸収する。ここで、降下直後から再昇降が可能である。

EVA専用長距離輸送機

EVAの長距離輸送を目的に新造された機体。巨体を支えるために必要な動力を効率的に発生させるために金属翼という形状が採用された。そのため移動スピードはやや劣るものの安定した飛行が可能。また長距離にも優れ、EVAを搭載したまま太平洋を横断できる。本機の空場によって、地形の影響を受けずにEVAを短時間で目的地に輸送することが可能となった。

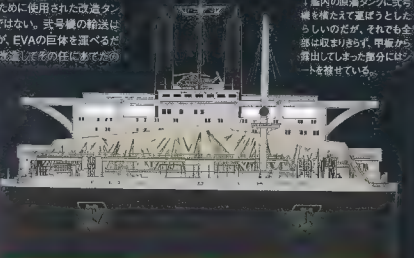


試身機輸送用改造タンカー

ドイツ支部からEVA試身機を運送するために使用された改造タンカーは、正確にはEVA専用の輸送設備ではない。試身機の輸送は同支部派の太平洋艦隊が担当したのだが、EVAの巨体を運ぶための設備がない場合は、量産型EVAを運送するの任に委ねたのである。EVAを運送するだけでなく、この程度装備でも充分だといえる。この程度装備でも充分だといえる。この程度装備でも充分だといえる。



タンカー内の試身機は吊り下げられた状態で運ばれていた。



「艦内の底層タンクに試身機を吊り下げて運ばれた」らしいのだが、それも念案は設計が、甲板から吊り下げてきた場合はシートを張っていた。

エクストラシート xtra Sheet

F型装備

EVAのFlight装備と思われる。オプション装備のひとつで、EVA長距離輸送機から空中降下させる際などに必要な装備であった。第七話においてJ.A.を止めるため、渚城ミサが初号機のF型装備を日向マコトに要請していた。外見の変化はないため追加の外装や装備ではないようだが、EVAの空中降下に備え、落下時の衝撃を和らげるための機構などが組み込まれていると考えられる。

F型装備

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン2」に登場する初号機の最終期型。AFCエクスペリメント（フィールド制御御用実験機）は、A.T.フィールド利用の新技術を用いたEVAのオプション装備である。装甲に沿ってA.T.フィールドを纏う[A.T.F.偏向器]内蔵の新型装甲と、閉鎖型A.T.フィールドを用いての推力を可能にする[A.T.A.D.ジェット推進器]を装備。追加された武器には、超近距離専用の遊星砲兵器「インパクトボルト」と、より格闘向けの刃に改造された「プロングレップ・ダガー」がある。攻防共に強化されているものの、通常装備に比べて3倍の重量を持つことで、機動性は低下している。なお、実験機の名稱が示す通り、AFCは完全に確立された技術とはいえない。そのため非常に不安定であり、信頼性に欠ける装備といえる。
登場作品「新世紀エヴァンゲリオン2」

L.C.L.

操縦者がEVAに搭乗する際、エントリープラグ内に注入される多量の性質を持つ水溶液。液体内には酸素が含まれており、操縦者は肺から直接L.C.L.内の酸素を取り込むため、呼吸の心配はない。神経接続に不可欠な液体のため、操縦者を衝撃から保護するほか精神防壁とての役割も果たす。L.C.L.の純度は限りなく100%に近い状態でエントリープラグ内に満たされる。第2次コンタクトで神経接続を開始し、L.C.L.に電荷することで分子配列の変化を促し、擬似的なスクリーン形成を行う。また、液体自体は浄化能力を持つが、生命維持モードとはいえ16時間近く経つと浄化能力は低下するようだ。生命の源ともいわれるので、A.T.フィールドを失ったヒトはL.C.L.と化してしまう。なお、一説だとL.C.L.は「Link Connected Liquid」（両隣接続用液体）の略ともいわれる。L.C.L.の源となるものはリリスの体液と見られ、「L」は「Lilith」の略とも考え得るだろう。



L.C.L.は黄色味のかかった液体で、生臭い血のような匂いを放つ。

L.C.L.圧縮濃度

L.C.L.圧縮濃度を限界まで上げること、エントリープラグ

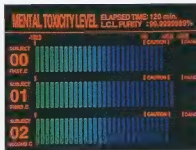
内の錠シンジは肺の酸素を吐き出すように空化した。このことから、圧縮濃度を上げることで肺から直接行っていた酸素交換（すなわち呼吸）が不可能になると推測される。錠シンジの指示で成されたが、伊吹マヤの反応からすると危険な手段なのであろう。



初号機内に立てこもったシンジに対し、強制排出の手段として使用された。

L.C.L.PURITY

L.C.L.の純度。ハーモニクス実験中にある「MENTAL TOXICITY LEVEL」（精神汚染レベル）というモニター表示に純度が表示されている。ほぼ100%の純度を用いているが、テストのために高純度のL.C.L.を使用するという可能性も考えられる。



99.99999898とモニター上に表示、限りなく100%に近い純度で使われていることが分る。

L.C.L.プラント

ターミナルドマにあるL.C.L.の生産工場。ヘンズドアを抜けた先であり、アダムと偽られていたリリスの肉体が露出されている。その肉体から流れ落ちる体液はL.C.L.と類似している。



L.C.L.はまるでリリスの子宮から滴り落ちているようにも見える。

ELEE

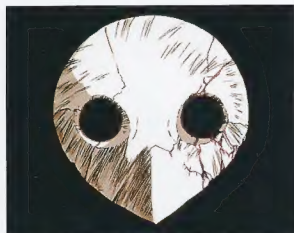
伊吹マヤの私服に書いてあった名前。おそらくTシャツのブランド名と思われる。



楽楽舎において、NERV本部への出張時に、赤木リツコと青葉シゲルと共にコンラドビルを訪れた際の私服。

ANGEL

使徒のアルファベット呼称。MAGI等のモニター上ではこう表示され、訳は「天使」となる。使徒は神の御使いとされる存在であり、NERVでは使徒に天使の名を冠して呼称。人類の天敵として位置づけ、殲滅対象とした。なお、使徒は英語にすると「apostle」となる。



ANGELと呼称される使徒。その名の通りの存在だとすれば、人間は神の代理人たるモノと敵対しているという構図になる。

エントリープラグ

脱出機構を兼ねたEVAの操縦器。細長い円筒状をしており、内部はL.C.L.で満たされる。上部のメインスライドカバーを開いて操縦者の座席を内部に収納。これをEVA本体の脊椎部分に挿入して起動準備が可能となる。エントリープラグには脱出用ロケットノズル機とパラシュート機能があり、非常時のためのエジェクションシートと非常ハッチを持つ。しかし、零号機のみはプロトタイプのためエジェクションカバーはなく、脱出用ロケットノズルは4機しか備わっていない。また、エントリープラグ内にある座席には、操縦者の意志をダイレクトに伝えるコントロールレバーや狙撃用のバイザーなどを有す。そのほか座席後部には巨大ディスクドライブが収められ、背面には製造年月の刻印が見取れる。この座席前部はプラグ内で安定させるためのフィンを備え、後部移動用フィンによってエントリープラグ内のレールを上出し、プラグ深度の調整を行う。深度は下に移動するにつれてシンク比率が高まり、比例して精神汚染の危険も上昇すると見られる。なお、綾波レイはエントリープラグを「魂の座」と称した。



エントリープラグ内部座席は、操縦者にフィットした造りを持つ。

エントリープラグ内スクリーン

光学カメラから取り入れた映像を映し出すEVAのスクリーンシステム。真後ろ以外は広視野をカバーしている。

E

エクストラシート
xtra Sheet



電荷されたL.C.L.が分子レベルで配列交換され、擬似スクリーンを形成を行なう。

エントリープラグ内通信用ウィンドウ

EVA操縦者同士の双方向映像伝送。搭乗機体の型式番号が表示されたウィンドウ内に、会話中の操縦者を映し出す。なお、NERV本部のモニターにもウィンドウは表示される。



音声だけでなく会話相手の顔も表示されるリアルタイムの双方向伝送で、複数の相手を同時に表示可能。

● CATEGORY お

Glossary

近江屋

第8話において、第8使徒シダルフオン機滅後に碓氷シヅタたちが訪れた温泉旅館の名前。軽井沢などの温泉地と思われる。当日はNERV一行の貸し切りになっていた。なお、NERV一行に加村リョウジからのクール宅急便が届く。その中にはペンペンの袋があり、温泉ペンギンという新種だかつて温泉を堪能していた。



温泉街の一角にある近江屋。落ち葉の行方を見守る老舗旅館である。

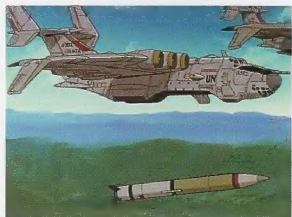
大井サツキ

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン 碓氷シヅタ育成計画」に登場するオリジナルキャラクター。MAGIカスパーの主任オペレーターで碓氷は三尉。ロシア人とのハーフで、スラブ系の顔立ちをした巨乳の美女である。繊細な芸術家魂で潔癖性だが、意外にも好きになった相手をひたすら愛し抜く情熱を持つ。宿しがり屋であり、人恋しさを紛らわすためかお酒好き。とくにウオトカをよくよく愛する。

登場作品「新世紀エヴァンゲリオン 碓氷シヅタ育成計画」

大型機

国連軍が保有する大型爆撃機。底部に大型ミサイルを1機搭載できる。厚木と入間配備された航空戦力であり、重戦艦機と共に第3使徒サキエル迎撃に投入された。また、戦時自衛隊も保有しており、NERV本部襲撃の際はEVA式母機に対して攻撃。しかしながら、直撃したミサイルでさえもダメージを与えるには至らなかった。



搭載するのは巡航ミサイルと思われ、遠距離から攻撃する戦術爆撃機の類だと考えられる。

大型破砕兵器デュアル・ソー

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン2」に登場するEVAの装備。使徒の自己再生能力を遅延させることを目的として開発された近接用破砕兵器。高速回転する複数の高周波刃で対象物を再生不可能なまでに破砕し再生速度を鈍らせる。大型の発動機を用いるため両腕で構える。

登場作品「新世紀エヴァンゲリオン2」

大型ミサイル

大型機に搭載されるミサイル。第3使徒サキエルやEVA式母機に向けて発射されたものは空対地ミサイルであり、弾は内蔵されていないと見える。長射程の巡航ミサイルだと思われる。狙いが正確なことから高度な誘導装置を備えていると推測される。

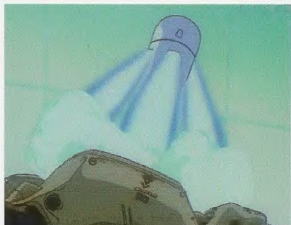


ミサイルが直撃したサキエルや式母機は衝撃で仰け反る程度であり、実質的なダメージは全く与えられなかった。

オート・エジェクション

エントリープラグの緊急射出システム。何らかの非常時や緊急時において、操縦者の保護を最優先と判断された場合

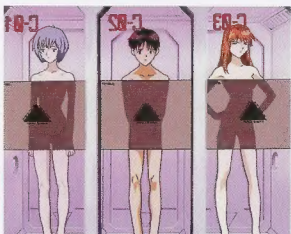
に自動でエントリープラグが射出される。基本的に外部からの信号によっても作動するが、第拾四話の機体相互互換試験の際、制御不能に陥った零号機は作動しなかった。



第拾話における零号機の起動試験では、自動制動システムが反応しなかったために作動。屋内での実験だったが、パラシュートが開く間もなく天井にぶつかって落下、綾波レイが重傷を負った。

オートパイロット実験

プラグスーツの補助なしに、直接肉体からハーモニクスを行なう実験。なお、初実験では1週間かかっていたが、MAGIのサポートによって約3時間に時間短縮されている。実験はMAGIの制御下で行ない、オートパイロットが記憶されている。最初はシミュレーションプラグを模擬体に接続し、碓氷シヅタたち適格者の感覚を確認。そのうち模擬体経由でEVA本体に接続する。実験により零号機がA.T.フィールドを出力230%で発生した直後、第87タンクバグに侵入していた第11使徒イロウが活性化。綾波レイの乗る機体まで爆発的スピードで浸食していく。その際にシヅタたちのシミュレーションプラグは緊急射出され、実験は中断せざるを得なくなる。



超クルールームに入るため17回におよぶ無重力シャワーを浴び、乗機でシミュレーションプラグに向かうことになった3人。

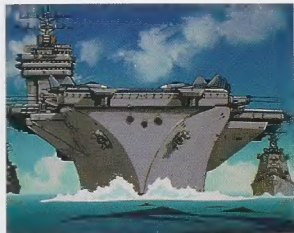
09システム

09（オーナイン）と読む。EVAの起動システムを即称した通称。EVAの起動確率が0.000000001%と極めて低く、0が4つとも並ぶためにそう呼ばれている。起動確率を聞いて「動かかない」と同じという葛城ミサトに対し、赤木リツコは「ゼロではない」というに答えている。

オーバー・ザ・レインボウ

国連軍の太平洋艦隊が誇る正規空母。もともと海軍ニッツ

8号艦「ユナイテッド・ステイツ」を改名した原子力空母である。全長332.9m。多国国籍が強く、ロシアの空母アドミラル・クズネツォフに搭載されていた旧ソ連製の戦闘機SU-27を艦載機としている。また、葛城ミサトが持参したEVAの非常用ソケットを設置。動力が原子力だけあってEVAの必要電力を10分程度余剰エネルギーを持つ。なお、ニミツ級は世界初の量産型原子力空母であり、実際の8号艦の名は「ハーリー・S・トルーマン」という。



10万トの排水量を超える世界最大級の空母。蒸気カタルトやヤングドイル・デッキなど、艦載機の運用を追求した構造を持つ。

オーバー・ザ・レインボウ艦長

空母オーバー・ザ・レインボウの艦長。太平洋艦隊を指揮する立場で、ドイツから日本までのEVA式号機輸送を担う。米海軍の第7艦隊に所属する少将。巨費が投じられたEVAを高いオモチャだと軽んじており、NERV所属の葛城ミサトに対して皮肉ある態度で接した。プラダの高い着衣だが、艦隊が使役に対して無力だと最終的に判断し、ミサトの立案した作戦を了承する潔い人物でもあった。



海上は太平洋艦隊の管轄にあると主張。機集した使徒に艦隊が沈められても、許可のない式号機の起碇を認めなかった。

オーバー・ザ・レインボウ副長

空母オーバー・ザ・レインボウの副長。熱くなる艦長に反して状況を冷静に見定めており、副官として優秀な人物といえる。起動したEVA式号機がB型破備だと見抜き、NERVのEVA関連の資料も把握していると考えられる。



式号機と使徒の起碇が開始されると、艦長を苦しめている早く協力し、双眼鏡で電源ケーブルの設置を計測していた。

大浦谷

芦ノ湖と並ぶ箱根の観光スポット。神奈川県と静岡県にまたがる箱根火山の火口である。この地の上空で、第16使徒アルミサエルが定点回転しつつ停滞していた。

おかえりなさい

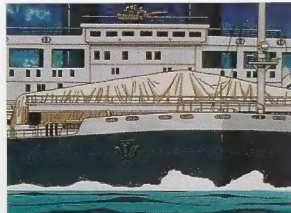
帰ってきた相手を迎える挨拶。綾波レイがリスへと還る際の「ただいま」を受けて返された。このやり取りは、葛城ミサトが保護者として碇シンジを自宅に連れてきた際、シンジが家出の求NERVから去ろうとした際などにおいても見られる。



「ただいま」「おかえりなさい」のやり取りを経て、綾波レイはリスの肉体と同化した。

オセロ

EVA式号機を輸送する改造タンカーの呼称。式号機が起動中であることを旗艦オーバー・ザ・レインボウに入報。その後、第6使徒ガキエルの体当たりを受けて沈没した。ブリッジの上には攻撃ヘリコプターM-2が撃墜している。なお、「オセロ」は劇作家シェイクスピアが描いた4大悲劇の1つであり、太平洋艦隊には戯曲の名から取られている軍艦が多い。



タンカーの中央、奥の下に横たえられた状態で式号機が収容されている。

汚染区域

EVAから精神汚染が開始される領域。エントリープラグ内にある座席の深度を下げることでEVAと操縦者の接触がよ

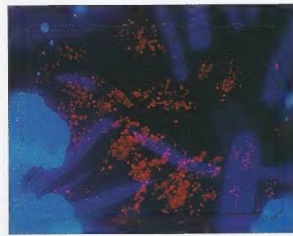
り密になり、EVAからの影響（精神汚染）も強くなると推測される。そのため、一定以上のプラグ深度が汚染区域といえよう。第16使徒におけるハーモニクス実験で、汚染区画ギリギリに隣接した場合のハーモニクス・シミュレーションを固める。その際に綾波レイと惣流・アスカ・ラングレーを置いて碇シンジには余裕があったため、プラグ深度をさらに下げてのテストが成された。このことから、連絡者個人によって汚染を受ける領域に幅があると考えられる。



モニターに映る連絡者の表情は、そのままプラグ深度の位置だと考えられ、いちばん深者（汚染区域付近）にいるシンジの表情は硬い。

オゾン

酸素原子3つから成る酸素の同素体。強い酸化作用を持ち、殺菌や脱臭などに使われる。ジオフロント内に潜入した第11使徒イロワルがオゾンを超えて浸食していたことから、これが弱点だと考えられた。



当初はイロワルにとって害毒だったが、進化により克服、増殖のためのエネルギー源として使われてしまった。

男の戦い

第16話のサブタイトル。英文タイトルは「INTROJECTION」。イントロジェクションとは、心理学の用語で「取り入れ」を指す。自分自身には本来存在しない考え方や行動、規範を、あたかも自分のもののように呑み込んで思い込んでしまうことをいう。

お弁当

食事に相当する携帯食糧。河木ヒカリが鈴原トウジに作ってあげると約束した。乙女の手作り弁当には、得てして羨す相手への好意が込められているものもある。いつも購買のパンでお昼を過ごすトウジを見て、密かに彼を想うヒカリは一大決心。「父や姉妹の分のお弁当も作っており、そのため材料がいつも余ってしまう」と、ドギマギしながら退屈しに

トウジのお弁当を作りたいとアピールする。彼がその意を組んだかどうかは不明だが、残飯処理なら手伝うと譲り負う。喜ぶヒカリはお弁当作りに意欲を燃やすが、結局満足感では選ってこなかった……。



トウジのために作ったお弁当だが、当人はEVA3号機の起動実験のため学校には来ておらず、無駄になってしまう。

オリジナル使徒

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン 2nd.Impression」に登場するオリジナルの使徒。第1形態は円盤状の血を垂ねたタウシのような姿をしており、底部には昆虫のような手足を数本持つ。数個の円盤状パーツに別れた体構造を持ち、その体の一部を武器と化し、飛ばして攻撃する。また、敵から攻撃を受けると分散して逃げ、再び結集して元に戻ってしまう。なお、体にある無数のスパイクが一齐に伸び、先端が広がって盾を形成。質量を増大させてサナギから襲い至るように第3形態へと進化する。進化後はスレンダーな容姿に変化。伸縮自在のスパイクで攻撃し、EVAのエネルギーを吸収するほかA.T.フィールドを切り裂く力を持つ。襲って来る使徒は実体のない影のような存在であり、倒しても復活する。その本体であるコアは、転校生の少女、山岸マユミの体内に潜んでいるのだ。

登場作品「新世紀エヴァンゲリオン 2nd.Impression」

終わる世界

第5話拾伍話のサブタイトル。英文タイトルは「Do you love me?」。訳は「私を好き?」となる。

温泉ペンギン

新種のペンギン。風呂への入浴を欠かす。寝床は冷えた場所を好む。高い知性を持ち、ボタンを壊した扉の扉開けだけでなくTVや新聞もたしんでいる様子。ペンペンという名を持つ、葛城ミサトの同居者が確認されている。



温泉ペンギンというだけあって、温泉には生き生きと入浴していた。

か行

CATEGORY か

Car OX

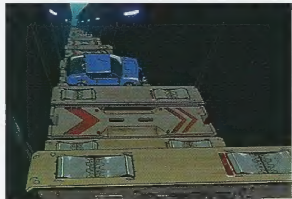
葛城ミサトが愛読していると思われる車情報誌。彼女はアルビノスA310 (改)をはじめフェラーリ328でも所有している。そのためスポーツカーに比重を置いた内容の雑誌だと考えられる。



第5話においてミサトの部屋に散らばっていた。別の車雑誌も見え、かなりの車好きと知れる。

カートレイン

第3新東京市とジオフロントを結ぶ車両列車。7両編成のリアモーター駆動で動く。車内には7台のカーゴトレイがあり、車に乗ったまま移動できるようになっている。



第3新東京市の各所に駅があり、途中の駅には止まらないジオフロント直進の特別列車も存在する。

外部電源用ソケット

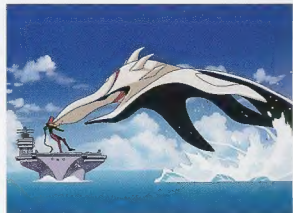
EVAの背部にある三機のソケット部分。アンピリカル・ケーブルのコンセントを接続するために使われる。



外部電源をマウントする部位で、手動でも接続できるように単純な機構となっている。

ガギエ

水車型の第6使徒。武号機を輸送中の国連軍太平洋艦隊を襲撃。巨大な口と高速度で生み出す衝撃波で次々と艦隊を沈めた。交戦した武号機を水中に引き込むが、くわえ込んだ武号機によって口をこじ開けられ、自沈した戦艦2隻の零距離砲撃と自爆を体内に受け壊滅された。実のところ狙いは武号機ではなく、アダムとされる胎児状の生物が目的だったとも言われる。なお、旧約聖書の偽典のひとつである「エノクの書」では「魚」を司る天使と言われている。



旧伊勢湾直進道と連絡されたガギエ軌。口腔内にコアを持ち、餌を思わせる口と1kmにも及ぶ長大な体構造を有す。

加持のテレカ

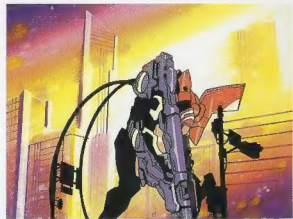
加持リョウジが所有していたID入りのカード。第5話拾伍話において、公衆電話でテレホンカード代わりに使用し、葛城ミサトへ最後のメッセージを遺した。



NERV本部各所の通行証を兼ねた身分証明書。カードを見た加持は、まるで虫の如くとした。

可視波長のエネルギー波

第15使徒アラエルが武号機に向けて照射した光線。A.T.フィールドに似たエネルギー波であり、操縦者の精神に直接の心理攻撃を行う。この光によって激流・アスカ・ラングレーは心の傷を入り出され、シンクロナの低下を招いた。なお、可視波長とは肉眼で視認可能な波長をいう。



熱などの物理的エネルギー反応はなく、この光で操縦者の精神波長を探っているかに見える。